

「日本型 21 世紀対応教育の国際モデル化に関する国際比較研究

－多元的モデルの構築」（科研基盤 A）研究概要

恒吉 僚子

今日、21 世紀型能力や資質の育成を目指して各国が教育改革を推進し、グローバル化を背景にした国家間の教育モデルの借用も盛んである。しかしながら、21 世紀型能力や資質を育成する教育の論理や実践枠組み、つまり、21 世紀型対応教育への改革のマスタープランのレベルにおいては、西欧先進諸国のモデルが国際的な独占状態にある。本研究の目的は、日本の学校教育における特徴的な実践を国際的に発信しながら、アメリカ、シンガポール、中国（上海）、スウェーデンとの国際比較を通して、日本の 21 世紀型対応の教育モデルを分析し、西欧の代替モデルの概念化、海外教員の研修を相互に関連させて推進し、「研究－実践」を連続的に位置付け、国際モデルの多元化を模索することにある。